2016、1月7日(木)
日本経済新聞 朝刊
北海道版

では、日本で働きながら技能を学んでもらう外国人技能実習制度を積極活用。従来の中国人中心からベトナムやミャンマーなど実習生の国籍が多様化している。訪日客が増える観光業では人手確保と外国語接客の両面を狙い、中国人大学生を活用する動きも出てきた。

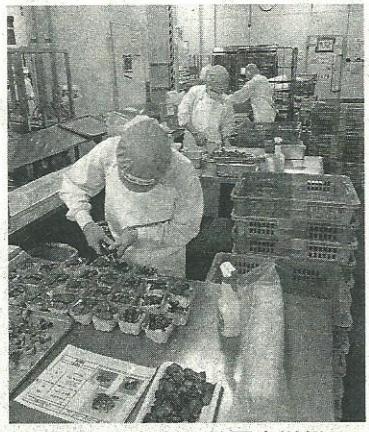
アークスは2016年早々にミャンマーから技能実習生を約20人採用する計画。札幌の総菜工場などで加工食品の製造などに従事してもらう。15年4月、技能実習制度の

アークス ミャンマー実習生

コープさっぽろ 食品工場にベトナ

で初めてベトナム人実習生を8人採用した。約100人の中国人を同市や石狩市の工場で採用してきたが「中国で人件費が上昇し、集めにくくなっている」（同生協）。

年約120人の実習生を受け入れるJA新おたに



食品工場などで外国人労働力の活用が進む（コープさっぽろの石狩食品工場）

理課）。農家の評判は上々で、16年もベトナムから同規模で採用する。

北海道庁によると農業の実習生は14年で165人と3年前から約2割増加。人手不足を補う実質的な働き手として実習生頼みが強まっている。

道内の有効求人倍率は15年10月に1・02倍と過去最高を更新した。特に建設業や観光関連で人手不足が目立つ。

「学生は現場体験など賃金以外の理由で来日を希望するため中国で賃金が上がっても人材を確保できる」（佐藤良雄社長）。

志賀商店から13店買収

小樽・余市に店舗網

ラルズ

アークスは6日、小樽・余市地区を中心に「スーパーチェーン シガ」を展開する丸しめ志賀商店（余市町）から食品スーパー（SM）事業を買収すると発表した。子会社のラルズが13店舗と関連不動産を譲り受ける。ほぼ未出店だった同地区で店舗網を強化する。今後の動向に注目が集まる。

どに契約を結ぶ。ラルズは店舗だけでなく従業員や取引先も引き継ぐ。志賀商店の2015年8月期の売上高は75億円。

アークスの横山清社長＝写真㊧＝は6日の記者会見で、志賀商店の志賀治夫社長＝同㊨＝とは

商圏内には）出店してこなかった」と語った。札幌市を中心に店舗展開するラルズは小樽市には1店しか出しておらず、これを機に地盤を築く。

スーパー販売0.8%減

道内50社 14年度、寡占進む

民間調べ

帝国データバンク札幌支店は6日、2014年度の道内スーパーストア

一方、志賀商店の志賀社長は「店舗を展開している後志管内では人口減少が急激に進んでおり、（単独では）限界があった」と話す。「ここ数年

上高は1兆1099億円で前年度比0・8%減った。上位10社は同0・4

は利益が出たり出なかったりという状況だった」（アークスの古川公一取締役）こともあり、従業員や取引先の引き継ぎを条件に事業譲渡を決めた。

た。0・3ポイントの上昇で、寡占化が進んでいる。

グループ別ではアーク

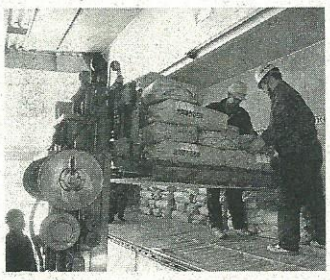
37億円（シェア26・5%）。2位はコープさっぽろグループで1・5%減の2808億円（同25・3%）だった。3位はイオングループで2・2%増の2788億円（同25・1%）。3グループで計76・9%に達した。

同支店は「消費人口が伸び悩むなか、寡占化が進む一方で、中小・零細のスーパーを取り巻く環境は厳しさが続く」と指摘する。上位50社で増収

道産米 米国に出発

JAたいせつ、初出荷

たいせつ農業協同組合（旭川市）は6日、米ハワイ州へ向けて玄米13・2トンを同市内の倉庫から出荷した＝写真。15日に苫小牧を出港し2月4日にハワイに到着。WakkaJapan（ワッカ・ジャパン、札幌市）の現地の精米所を通じ販売する。JAたいせつが米国にコメを輸出するのは初めて。「新たな販路の拡大に期待している」（池田修農産販売課長）。



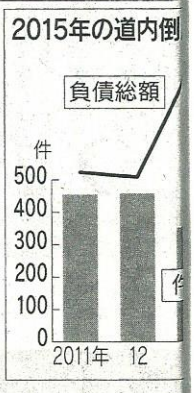
ハワイ向け玄米13トン

同社は品質劣化を避けるため玄米で送り、現地で精米する手法で海外販売を増やしてきた。ハワイでは2月に拠点を開設。日本料理店などに卸販売し、3月から一般向けの小売りも始める。環太平洋経済連携協定（TPP）交渉の大筋合意でコメの輸入増を懸念する声が強まる一方、輸出を目指す動きも本格化してきた。

道内企業、売

北洋銀調査、10～

北洋銀行は6日、道内企業の経営動向調査をまとめた。2015年10～12月期の全産業の実績は売上判断指数（DI、「増加」－「減少」）が前回（同7～9月期）と横ばいのマイナス9だった。利益DIは3ポイント上昇しマイナス7となった。外国人観光客の増加などを追



経営改善や金融機関による返済猶予により倒産が出にく